

様式 3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数							非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち理学療法士又は作業療法士数			
理学療法学科 昼間部	人	人	人	人	人	9人	9人	人	9人	20人
計	人	人	人	人	人	9人	9人	人	9人	—

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】 当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】 養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基礎 分野	科学的思考の基盤・人間の 生活・社会の理解	医療人スキルアップ セミナー	30	弘 美佐子	兼任
		生涯学習論	8	山根 好史・前川 明久	兼任
		学習支援セミナー	8	高橋 眞太郎	専任
		自然科学	8	田中 嵩樹	兼任
		医療英語	8	土田 力童	専任
		情報科学	8	田中 嵩樹	兼任
		コミュニケーション学	30	藤田 敏実	兼任
		健康科学	8	弘 美佐子	兼任
専門 基礎 分野	人体の構造と機能及び 心身の発達	解剖学Ⅰ	30	前田 誠司	兼任
		解剖学Ⅱ	30	田中 嵩樹	兼任
		生理学Ⅰ	30	宮崎 眞男	専任
		生理学Ⅱ	30	小財 知幾	専任
		運動学Ⅰ	30	高橋 眞太郎	専任
		運動学Ⅱ	15	大野 京介	兼任
		人間発達学	15	木村 大	専任
専門 基礎 分野	疾病と障害の成り立ち及び 回復過程の促進	医学概論	30	内原 由佳子	専任
		臨床医学	15	飯 春菜	専任
		救急医学	8	飯 春菜	専任
		病理学	15	大野 京介	兼任
		小児科学	15	大野 京介	兼任
		精神医学	15	小財 知幾	専任
		臨床心理学	15	飯 春菜	専任
		整形外科	30	高橋 眞太郎	専任
		神経内科学	30	楢田 幸輔	専任
		内科学	30	飯 春菜	専任
	保健医療福祉と リハビリテーションの理念	保健医療福祉概論	15	土田 力童	専任
		リハビリテーション学	30	山根 好史	兼任
		医療研究論	15	田中 嵩樹	兼任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
専門 分野	基礎理学療法学	理学療法概論	15	前川 明久	兼任
		機能障害学	15	木村 大	専任
		理学療法セミナーⅠ	15	柳本 展孝	専任
		理学療法セミナーⅡ	15	鍛田 幸輔	専任
		理学療法セミナーⅢ	30	柳本 展孝	専任
	理学療法管理学	理学療法管理学	15	小財 知幾	専任
	理学療法評価学	理学療法評価学Ⅰ	30	鍛田 幸輔・内原 由佳子	専任
		理学療法評価学Ⅱ	30	内原 由佳子 宮原 隆登	専任 兼任
		理学療法評価学Ⅲ	15	田中 嵩樹	兼任
		理学療法評価学Ⅳ	15	宮崎 眞男	専任
専門 分野	理学療法治療学	物理療法学	15	前川 明久	兼任
		義肢装具学	30	石川 佑之輔	兼任
		運動療法学	30	宮崎 眞男	専任
		運動器理学療法学	60	宮原 隆登・前川 明久	兼任
		神経理学療法学	60	鍛田 幸輔 石川 佑之輔	専任 兼任
		内部理学療法学	60	柳本 展孝・木村 大 山根 好史	専任 兼任
		理学療法治療学	30	内原 由佳子	専任
	臨床理学療法学	15	柳本 展孝	専任	
	地域理学療法学	地域理学療法学	15	木村 大	専任
		地域理学療法学演習	30	木村 大 大野 京介	専任 兼任
臨床 実習	臨床実習	基礎臨床実習Ⅰ			
		基礎臨床実習Ⅱ			
		総合臨床実習			
選択 科目	必修科目	理学療法総合演習	210	小財 知幾・飯 春菜 高橋 眞太郎・柳本 展孝 内原 由佳子・木村 大 石川 佑之輔・田中 嵩樹 大野 京介・宮原 隆登 前川 明久	専任 兼任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

●基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
基礎臨床実習Ⅰ（見学実習）	1年後期	コミュニケーション学	1年通年
		リハビリテーション学	1年通年
		理学療法概論	1年前期
		理学療法セミナーⅠ	1年後期
		理学療法セミナーⅡ	1年後期
基礎臨床実習Ⅱ（評価実習）	2年後期	理学療法セミナーⅢ	2年通年
		理学療法評価学Ⅰ	1年通年
		理学療法評価学Ⅱ	1年通年
		理学療法評価学Ⅲ	1年後期
		理学療法評価学Ⅳ	2年後期
		臨床理学療法学	2年前期
		地域理学療法学	2年前期
総合臨床実習	3年前期	理学療法セミナーⅢ	2年通年
		物理療法学	2年後期
		義肢装具学	2年通年
		運動療法学	2年通年
		運動器理学療法学	2年通年
		神経理学療法学	2年通年
		内部理学療法学	2年通年
		理学療法治療学	2年通年
		臨床理学療法学	2年前期
		地域理学療法学演習	2年通年

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己評価委員会
委員名（委員長）	白井 元康
組織の開催頻度	原則として年1回
組織の取り組み内容	次の事項の取り組みを行っている
	・教育活動に関する事項
	・学修成果に関する事項
	・学生支援に関する事項
自己点検・評価結果の公表	H Pで公表（URL：https://www.kmc.ast.ac.jp/jyouhoukokai/）

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	シラバス会議
	委員構成等	学科長・教務主任・専任教員等
	改善の仕組みの実際	国家試験の動向や、学生や教員による授業評価を踏まえ、前期及び後期の授業開始前に教員によるシラバス会議を実施し、授業内容等の調整を行い、シラバス内容を確定させている。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

第三者による外部評価を受審し、結果をホームページで公表している。定期的に自己点検評価並びに学校関係者評価を実施し、課題改善に努めている。学科全体のPDCAサイクルを確立し活用を図っている。